



## うめの実がふくらみましたよ

園長 山中 文

正門のうめがもう実をふくらませています。登園の園児が落ちた実をみつけて、嬉しそうに見せてくれました。収穫するのはもう数日先でしょうか。楽しみです。

子どもたちの登園の姿もだんだんおちついてきました。可愛らしい声で丁寧にご挨拶してくれたり、はずかしそうにお母様の後ろに隠れたり、帽子を深くかぶって通り過ぎるかと思えばあとでチラッと見たり、と、いろいろな姿がみられて、朝の登園時間は楽しいひとときです。

そういう子どもたちを見ていて、子どもが小さい頃に失敗した会話を思い出しました。

一つは、遠足のお弁当について下の息子との会話です。保育所に通っていましたが、普段給食です。たまの遠足だから、弁当作りに励もうかと思い、子どもに聞いてみました。

「お弁当、何入れて欲しい？」。

私は、テレビドラマによく見られるように、息子が声を弾ませて「卵焼き」「ウインナー」などと言い、私が「そうだね、どんな風にしようかねえ」などと応えるような微笑ましい会話シーンを一瞬想像したのでした。でも、聞いている途中から、息子の日頃の好物を思い出して、しまったと思いました。勘は当たりました。息子が弾んだ声で答えたのはこれでした。

「納豆と汁」。

難題でした。

もう一つは、出張に行く前にお土産を尋ねた時の会話です。

「お土産は何がいい？」。

これは、まったく疑わずに車や自動車系のおもちゃをという返事を想像していました。毎日、どちらかで遊び、どちらかのビデオを見ていましたから。でも、またまた声を弾ませて言ったのは、これでした。

「上り列車！」

これも難題です。その後、思い出しました。彼が見ていたビデオには、「来た来た、向こうから上り列車がやって来た」という解説が入っていたのでした。

子どもは、大人が大人の枠組みで話してしまっているところに、堂々と子どもの枠組みで踏み込んできます。そんな時、「何言ってるの」と大人側の話をおしついたり、時間がなくて話を中断したりしないようにしたいものです。せっかく、こちらの枠組みで話してしまって起きたずれを子どもが気付かせてくれたのですから。そして、枠を外してみる見方の楽しさ・面白さを見つけさせてくれたのですから。

こんな会話を記録しておくよ、面白いですよ。

\*本文は、一部、保育Lab (<https://sites.google.com/site/hoikulab/home>) の「子どもと音楽」コーナーに掲載した文を引用しています。

